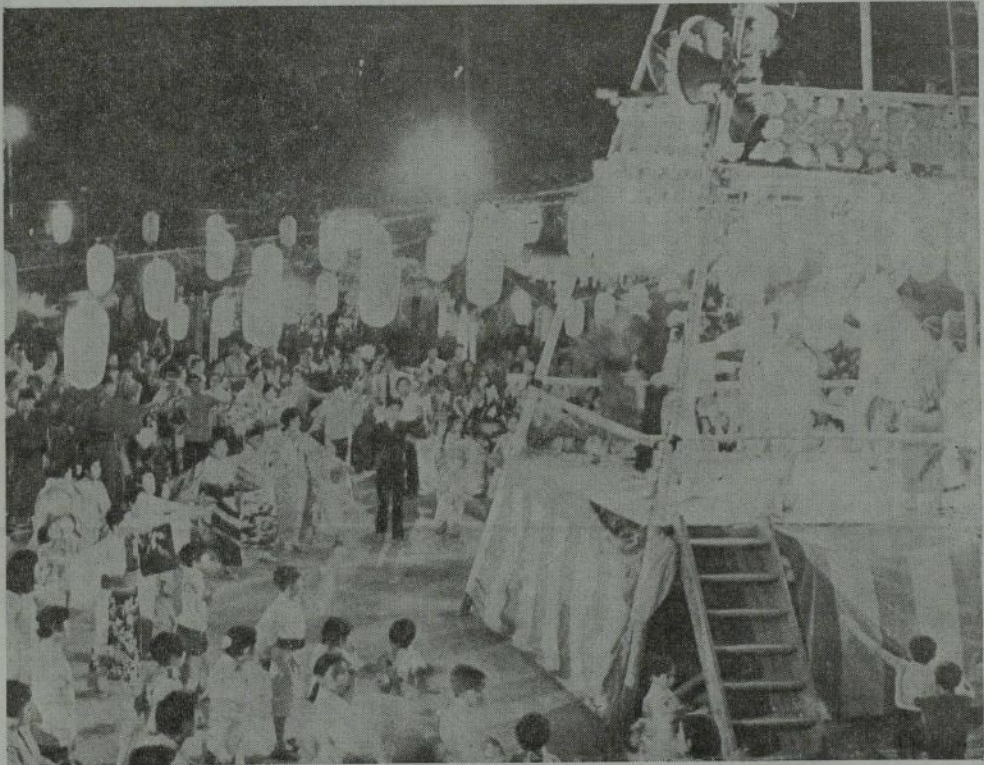


NO.178

全 仏

7 / 47



(盆踊りで賑わう東京祐天寺境内)



開会式の模様

の争いを生じさせないような配慮をするべきである」という強い要請を本部に対して行なった。

次に提出議案については、開催国であるセイロン側からの八議案のみについて検討された。実は日本側からも、「世界における天災および戦災孤児に対する救済活動の展開」という議案が用意されていたが、前もって、今後、議案を提出する国は、大会で決議された場合、責任をもって積極的に活動を展開すること、という意見が出され、しかも、セイロン提出の議案の中に、似たようなものが含まれていたために、日本側としては提出議案を一応引っこめ、その代り、経済部門運営委員会の議長を引き受けて、実際の募金方法を検討することにしたわけである。

さてセイロン側から提出された議案を、極めて簡略にまとめてみると、次の八つであり、それらは、一部修正されたものもあるが、全て総会において議決された。一、戦争を頂点とする全ての暴力を否定し、積極的に

世界平和を推進する運動に参加するよう全世界の人々に訴えよう。

二、過去二十五年間におけるユネスコの活動を賞讃すると共に、積極的にユネスコに働きかけて、仏陀の平和主義的な教えを世界の人々に伝えることを含めた種々な活動の支援をしよう要求しよう。

三、仏教教育の重要性を自覚し、積極的に、仏教教育機関の創設を含めた諸種の問題を検討するための委員会を設立するよう提案する。

四、仏教青年問題の解決のために、世界仏教青年会議を創設するためのあらゆる努力を結集しよう。

五、早急に、世界仏教婦人会議を、世界仏教徒連盟の中に組織するよう提案する。

六、ユネスコ以外の、ユニセフ・WHOといった、平和運動を推進している他の団体とも密接な関係を持つことよって、世界的な平和運動を盛り上げよう

七、ユネスコによるルンビニ復興計画を援助し、同時に、舍衛城を含む仏陀の他の遺跡の復興と保存とを

するためのあらゆる努力をしよう。

八、規約の一部改正(省略)。

以上の提案は、二十四日午後からの六つの部会に、内容によってそれぞれ分けられ、参加代表による討議の末、翌二十五日午前の総会で報告され、さらに一つ一つが議論された上で、最終日の二十六日の総会において採択された。

二十二日の午後六時から、釈尊がその生存中訪れたという伝説のある、コロンボ郊外のケラニア寺院において、比丘団によって仏教法要が行なわれたが、日本代表団一行も参加した。なおその際、WFBの副会長をつとめ、世界仏教徒会議にも何度か出席された、故高階彌仙禅師を含めた、WFB関係の物語者の冥福が祈念された。

二十三日午前の代表者会議に続き、午後二時から、

事務総局

| | |
|--------|------|
| 事務総長 | 麻布照海 |
| 事務次長 | 桜井大乗 |
| 総務局長 | 樽井正浩 |
| 組織文化局長 | 新間信雄 |
| 国際局長 | 柳沢了堅 |
| 財務部長 | 小沢照禰 |
| 庶務部長 | 阿部顕瑞 |
| 組織文化部長 | 岩脇信樹 |
| 国際部長 | 黒川孝一 |
| 他 | |
| 事務総局長 | 芝原響一 |
| 部長 | 同 |
| 職員 | 同 |

関西事務局

大会のハイライトである開会式が、前日独立記念祝典が行なわれたナバランガハラ大会堂において、各国代表二百余名、セイロン側約三千名の出席のもと、盛大に行なわれた。日本代表七名は、壇上の、しかも比丘と同じ右側に坐ることが許されたが、これは、大乘の僧侶に対する認識が改まったのか、比丘の位置が相対的に下がったのか(というのは、俗人の代表も、同じ壇上の左側に坐っていたので)、いずれにしろ興味深いことであった。

各国元首・首相・仏教会長等からのメッセージ朗読は、時間の関係から、一国一名、しかも英語のみで、ということであったので、佐藤首相からのメッセージを私が代読したわけであるが、その際、首相官邸からもらってきた首相の写真を出席者に披露したところ、内容が、短いながらも極めて充実していたこともあって(英訳は外務省の手によってなされた)、拍手が最も多く、開会式終了後、多数の人から賞讃され喜ばれたことを報告しておきたい。

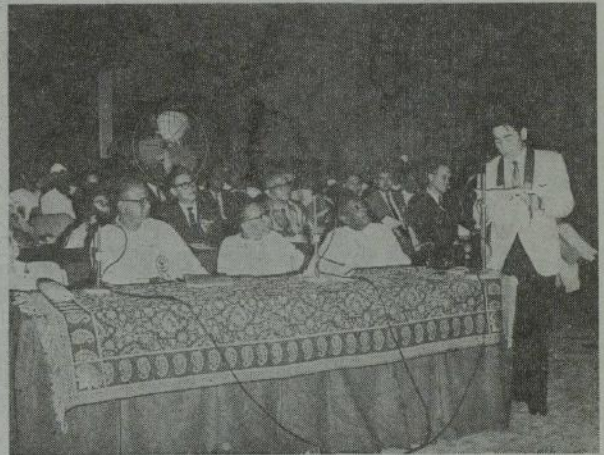
二十四日午前の総会においては、前日の代表者会議

昭和47年7月1日

において議論されたことが、議長よりまとめて報告され、午後の六分会の議長が指名された。日本側からは私が、経済問題部会の議長に選出された。なおこの日伊藤団長は、日本の持つWFB副会長の席を占めるため、壇上に坐られた。また、この日、各加盟団体からの活動報告書の配布が行なわれたが、日本からも、簡単な報告書が各代表に手渡された。

その日の午後二時から、全代表が六つの部会に分れて、提出された議案を検討したのであるが、私が議長をした経済問題部会においては、WFBが今後実際に活動するための資金についての討論が行なわれた。前述の第一議案に含まれるべき、戦争で災害を受けている国の人々の救済方法について議論が集中し、今までのように、単に理想を並べた観念的な問題ばかり決議したところで何の役にも立たない、という意見に一致して、「この大会に出席した代表からまず救済運動を始めよう」という提案をし、それが翌日の総会で認められたので、早速松本貞龍師が中心になって総会場で募金をし、数百ルーピーが集ったので、その場で本部側に手渡し、WFB本部を通じて被災国の仏教徒に送ってもらうことになった。なお当日、セイロン各地の見学のために出席しなかった他の日本仏教代表団は、帰国の途次、タイのバンコックにあるWFB本部に代表を送って、日本代表団からの寄付を追加してきたことを付記しておく。

なお、部会においても一つ問題となったことは、加盟団体の大部分が、WFB本部に対する一団体年五十ドルの会費を支払っていないので、実際の運動がやりにくい、ということ、七十二年度中に年会費を支払わない団体は、次の大会から投票権を失なう」とことが提案された。翌日の総会では、今年一杯というのは厳しすぎる、というので、次の大会までに支払う、という修正案も出されたが、本部財政の窮状が訴えら



佐藤首相のメッセージを朗読する筆者

れ、結局原案が可決された。

WFBの規約改正の中で、この度一番大きな問題になったのは、世界仏教徒会議を、今までの、「二年に一回」から、「三年に一回」としようという提案であった。これは、たまたま今回の会議がセイロン側の事情で一年のびてみると、種々な準備等のためにも、かえってその方がよい、ということになったらしいが、この提案が、執行委員会から総会に提議されると、多数の反対意見が出て、結論としては、一応今まで通り「二年に一度」とし、主催国の事情その他によっては「三年に一度にしてもよい」という修正案が議決された。したがって、今後も、特別な事情が発生しない限り、大会は二年に一度開かれるはずである。

最終日の二十六日の午前八時四十五分から、総会議場において、郵政大臣と灌漑大臣との出席のもとに、この第十回世界仏教徒大会を記念する記念切手が発売された。その後、最後の総会が開かれたが、代表団の

多くが席を離れて、お互いに贈り物を交換したり、特に議論として注目に値するものもなかったり、ということもあって、何となくだらけた雰囲気になってしまった。そして午後閉会式が行なわれ、四時半から、大菩提会において、閉会を記念する仏教法要が執行されたのである。

二十七日以後は、他の代表たちは、セイロン側の用意したスケジュールにしたがって、キャンディー・ヌラダブラ等を訪れたはずであるが、大会の全日程に出席した日本代表四名は、バングラデーシュに向うためにコロンボに残った中山理々氏を除いて、キャンディーで、他の日本代表団と合流した。

日本から持参した記念楯、高麗大蔵経(一部目録)、マイクロフォン、テープ、テールクロス、万年筆金珠、法輪バッジ等の土産品は、会議場において、それぞれの代表に正式に手渡して大変喜ばれた。ゴバラワ大統領、バンダラナイケ首相、コロンボ市長にもテールクロスをそれぞれ贈った。

さて、第十一回、すなわち次の世界仏教徒大会の開催国であるが、執行委員会において、日本、ハワイがそれぞれの事情によって辞退したために、一時混乱しそうになったが、韓国が、「引き受けてもよい」という意志を表明し、正式には帰国後相談して決定する、ということになったので、韓国において開催される可能性が強くなった。なお、その次の第十二回大会は日本でという強い要望が、委員会でも出されたことを報告しておく。

最後に、全仏が、本年度から再び予算を立てて正式にセイロン側に協力することになった、仏教大百科辞典については、編集委員長でもあり、世界仏教徒会議の名譽会長でもあるマララセケラ博士との間に、充分な話し合いが行なわれ、今後、日本側の協力が続けられることになった。

各種専門委員会開催

国際専門委員会

五月十二日午後二時より、全仏会議室において開催され、各委員の互選により正副委員長を選出した。

まず、第十回WFBセイロン大会の提出議案について、審議のうえ既報の議案「ルンビニ開発に協力しよう」を取り上げ、「世界の天災孤児の救援活動の展開」と変更して、提出することになった。

また、ここ教年中断のかたちになっていた英文仏教百科辞典の編纂事業については、編纂委員会(マララ・セケラ博士)よりセイロン大使館を通じて継続の申し入れがあり、全仏では今年度事業として推進することを報告し、これが再開に具体的方途を早急に検討していくことになった。

新国際専門委員は次の各氏(敬称略)

◎委員長、◎副委員長、以下同様)

- ◎岡野貴美子、◎慶野聡郎、◎新美孝道
- 村野宣忠、田村晃祐、佐伯真光、奈良康明、
- 花山勝友、鎌田良昭、田丸徳善、松涛弘道、
- 佐藤良純、伊東堅純、近藤隆敬
- 森祖道、黒田武志

組織専門委員会

五月十九日午後三時から全仏会議室において開かれ、正副委員長を互選した後議事にうつった。



全仏青森大会の部会名およびテーマについては、青森県仏案を検討した末、正副委員長に一任され次回委員会で決定することになる。

五月に本土復帰した沖縄県には現在二

十数ヶ寺の仏教寺院があつて沖縄仏教連合会が結成されており、復帰にともない加盟呼びかけをする。ただ現在宗教法人法による事務手続中と思われるので、文化庁等で実状を聞いた上で出来得れば青森大会までに実現の運びにしたい。

また時局対策として、近年、税制が改正され、宗教法人の行なう事業についても課税対称がひろがり、既報のように東仏からの要請もあつて、今回新たに税制特別委員会を設置して対処していくこととなり、委員会構成メンバーは事務局に一任された。

組織専門委員は次の各氏

- ◎鈴木敏範、◎熊野竜夫、◎新川日貝、
- 神野真一、清水谷孝尚、郡司博道、板橋宥成、
- 船口暉子、石上慈敬、岩本英樹、野村宗春、
- 久保壱太清、椎谷健、井上日宏

文化専門委員会

六月二日午後四時より開催され、正副委員長を選出したのち、今年度事業計画の具体化について検討した。

今年度日本仏教文化会議は、昨年につづき「生命科学と仏教」(第二回)シンポジウムを、国際仏教交流センターとの共催、読売新聞社後援のもとで開催することを了承し、運営委員を真溪、金岡、摩尼、白川、藤吉、雲井の各氏に委嘱する。

中央講習会については、青森大会後に

宗教法人法及び税制問題等を含めた講習会を東京において開講するよう進めていく。過年度まで事業計画にあつた「新仏教読本」の編纂については、事業計画「各種教化資料の作成と普及」の項に入れて研究を進めていくことになった。

また、宗教法人立の幼稚園問題については、今回、自民党文教部会による「学校教育法等改正案」なるものが二回撤回されたが、いづれまたこれが提出された場合、行政指導による宗教教育の問題、境内地の問題等種々予想されるので、今後日宗連、仏教保育協会等とも連絡をとりながら対処していく。

文化専門委員は次の各氏

- ◎真溪義貫、◎白川良純、◎金岡秀友、
- 摩尼清之、中村康隆、三輪美津子、島田喜久子、
- 門屋大寿、若林隆光、中根専正
- 塩入亮達、伊藤完夫、榊原帰逸

青森大会

部会テーマ決まる

組織専門委員会

六月九日一時より開かれた第二回組織専門委員会において、青森大会の部会及びテーマが協議され、青森県仏の意向を入れて次のように決つた。

第一部会(実践部会)——全一仏教運動の高揚について

第二部会(檀信徒部会)——寺院と檀信徒のつながりについて

第三部会(婦人部会)——幸福な家庭づくりは仏教精神で

関東甲信越静ブロック会議開かる



足東北ブロックを初め各地区ブロックの団結連絡を計りながらこの問題と取り組むという方針が確認された。最後に次期担当県について栃木県が予定されて開会したが、この有意義なブロック会議に鑑み、今後各地区にブロック会議が自発

東北ブロック会議が発足

新たに発足した東北ブロック会議が、さる六月十三・四日、青森市雲谷スカイランドホテルで開かれた。担当青森県仏東会長の導唱により

三帰依文を唱和したのち、議事にうつり、青森大会の日程及び予算大綱が石岡県仏事務局長より発表され、協力が要請された。これについて

参加各県代表は、東北においてはじめて開かれる大会に、むしろ東北誘致が遅かったくらいで、仏教徒連帯意識の高揚に非常な意義があるので全面的に協力することを約し、担当青森県のみならず、東北各県仏の意気込みから今大会の盛会が期待される。

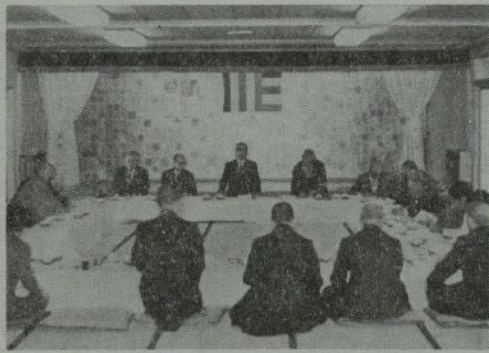
つづいて税制問題について、郡司博道東仏事務局長が基調講演し、質疑に入ったが、当地には貸地等の収盗事業はほとんどなく、住職の源泉

的に結成されることが期待された。

当日の出席者は、東京―栗本俊道師他六名、神奈川―見山宣泰師他四名、千葉―熊野竜夫師他二名、栃木―高木敏了師他二名、群馬―松浦亮一師他一名、茨城―小原泰寿師、埼玉―北之内真竜師、山梨―井村胤心師他二名、長野―半田孝淳師他二名、新潟―土田真也師他一名、静岡―田中亮三師他二名、全仏より麻布、桜井、新聞、鱒淵、岩脇、阿部、小沢師

税や徒弟教育費の扱い等が問題に上

った。当日の出席者は、青森―東義寿師他九名、岩手―熊谷隆正師、山形―阿部光伸師、福島―吉岡棟一師全仏―麻布、新聞、岩脇、阿部、小沢の各師



税制特別

委員会を設置

昭和四十六年四月一日施行の法人税法施行令の改正により、不動産貸付業の該当範囲が著しく拡大され、新たに収益事業を開始させられた寺院が統出し、全日本仏教会としても、これら税制に対応するために特別委員会を設置することとなった。その委員として組織専門委員の中から鈴木敏範、熊野竜夫、新川日見、郡司博道、久保基太清、岩本英樹の六氏が担当委員に委嘱され、委員長には鈴木敏範氏副委員長には郡司博道氏がそれぞれ互選された。第一回の税制特別委員会は去る六月八日全仏事務局において開かれ、今後の運営方針が検討された。まづ全仏として行なうべきことは政令撤回を求め、強力な陳情でありまた、収益事業の用に供する資産の譲渡（損益と見做されれば課税対象）の問題や宗教法人の行なう墳墓地貸付業という表現の問題（現在は非課税）等宗教法人法第八十四条に抵触するような課税取扱いについて質問状を発して文書回答を求める旨決議された。また住職寺院の源泉税問題や徒弟教育費についての問題など宗教法人にかかる税制の諸問題に対して広く調査、研究をし寺院の要望に応えることとなった。

暑中お見舞申し上げます

曹洞宗宗務庁

管長 佐藤 泰舜

宗務総長 山田 義道

参議 福山 忍裳

参議 宮前 鳳洲

総務部長 朽木 正己

教化部長 金子 宗一

財務部長 若山 運法

教学部長 岡田 己成

社会部長 阿部 博邦

秘書室長 山崎 秀明

広報室長 田中 亮三

浄土宗々務庁

浄土門主 岸 信宏

宗務総長 稲岡 覚順

教学局長 吉井 泰順

総務局長 水谷 激道

浄土宗開宗八百周年
記念慶議事務局々長 梶原 重道

浄土宗々務支所長 野村 宗春

真言宗

豊山派宗務所

文京区大塚五十四〇一八
〒112(九四五)〇六三五(代)

管長 平林 有高

宗務総長 築山 定誉

総務部長 浅井 堅教

教化部長 高山 宥進

教務部長 永見 聖宏

財務部長 久保 埜太清

事務総局録事(六月)

- 一日 WFBセイロン大会代表帰国
- 二日 文化専門委員会
- 五日 局内会議
- 七日 高野山晋山式参列(柳局長)
- 八日 税制特別委員会
仏教伝来謝恩事業会祝賀会出席(桜井次長)
- 九日 組織専門委員会
- 十日 神奈川県仏総会出席(新聞局長、北山主事)
- 青森大会ポスター出来上がり
- 十二日 韓日親善協会代表来局
- 十二〜十三日 東北ブロック会議
- 十七日 文化会議若林講師打合
- 十九日 民主外交協会苦辺地常務理事来局(ポロブドール)
- 二十二〜二十三日 関東甲信越静フロック会議
- 二十四日 全仏七月号原稿締切
- 二十七日 税制特別委員会
大会幹事会
- 二十九日 局内会議
- 三十日 宗連理事会(麻布総長、小沢部長、阿部部長)

暑中お見舞申し上げます

曹洞宗
大本山 永平寺

| | | | | | | | | |
|----|----|-----|-----|----|----|----|-----|----|
| 副寺 | 単頭 | 副監院 | 副監院 | 後堂 | 監院 | 西堂 | 副貫首 | 貫首 |
| 向 | 川口 | 北野 | 鈴木 | 鎌谷 | 宮崎 | 清水 | 山田 | 佐藤 |
| 大進 | 常先 | 良道 | 木祖 | 谷仙 | 文輝 | 浩竜 | 靈林 | 泰舜 |
| | | | 光 | 竜 | | | | |

孝道教団
孝道山本仏殿

統理・大僧正
仏教哲学博士(セイロン)
名誉哲学博士(中華民国)

岡野正道

副統理・権大僧正
名誉哲学博士(中華民国)

岡野貴美子

〒221 横浜市神奈川区孝道山
〇四五(四三)一一〇一

孝道教団東北別院

貫主・大僧正

岡野正道

山形市小白川町釜山

東京都仏教連合会

会長 栗本俊道
常務理事一同

大本山

川崎大師平間寺

貫首 高橋隆天

川崎市川崎区大師町四一四八
〇四四(天)三四二〇

大本山成田山新勝寺

貫首 松田照応

千葉県成田市成田一

新潟県仏教会

会長 土田真也

副会長 井上憲司

同 豊田良秀

同 西塔政舜

事務局長 倉茂良海

青森県仏教会

会長 東義寿

暑中お見舞申し上げます

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|----------------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|-------|-------------------|
| 經理部 | 企畫部 | 事業部 | 庶務部 | 事務局 | 淨土開宗八百年記念慶讃事務局 | 管理部 | 奉仕部 | 和順部 | 守廟部 | 施設事業部 | 財務部 | 庶務部 | 護持信徒部長 | 布教部 | 法務部 | 執事部長 | 門主 | 淨土宗 總本山 知恩院 |
| 長 梶原隆也 | 長 野中純道 | 長 小林忍戒 | 長 赤平昌導 | 長 藤田説量 | | 長 真柄大真 | 長 佐藤孝全 | 長 二本松聖順 | 長 赤木定順 | 長 三宅勇誠 | 長 松川嶺純 | 長 白幡憲佑 | 長 鈴木錦承 | 長 無垢品導生 | 長 立松法禪 | 長 鵜飼隆玄 | 主岸 信宏 | |

財団法人

全日本仏教尼僧法団

総裁 大宮智栄
副総裁 花山院 慈薫
理事長 北川教全

〒160 新宿区大京町三十一
慈母会館

社団法人

全日本仏教婦人連盟

会長 大谷智子
副会長 一条智光
理事長 山本スギ
事務局長 船口暉子
事務局 〒156 世田谷区桜上木四一九一七

埼玉県佛教会

会長 石川隆惇

浦和市高砂四丁目三十一八

静岡県仏教会

会長 田中亮三
副会長 小原良碩
同 佐久間 真忍
同 岩上覚二

田中香浦

国柱会主幹
〒132 江戸川区一之江

(株)千代田トラベル

織内七郎
加藤守雄
菊島輝男
相川忠重
渡辺義光

東京都港区曙山五十六一〇
千成ビル

国際仏教興隆協会

財団法人

名誉総裁 大谷光昭
会長 賀屋興宣
理事長 巖谷勝雄
役員一同
〒153 目黒区中目黒五十二四十五三
(祐天寺内)
(七二)七六〇八(直通)

影印本

秘蔵・韓国々宝を初めて全巻刊行！

世界各国より度々出版を試み許可されなかつた韓国海印寺秘蔵の高麗大蔵經の経板、八万余枚の影印製本を可能とした仏教学界の至宝です。

高麗大蔵經

寺宝に／学究の座右に／寺院の寄贈に…

- 七百余年を経た古典
- 超宗派の原典
- 世界唯一の経板による
- 全四十五巻・完璧な集録
- 写影であるから一字一句誤りがない

(造本・体裁)

縦 37cm 厚さ 7cm
 横 27cm 重さ 7kg
 平均 1,150ページ

(ご要望に応じ、カタログをご送付致します)

アジア文化事業株式会社

東京都新宿区西新宿8-3-31 / TEL (03)371-0125~6

昭和四十七年七月一日発行

発行人 麻布照海

編集人 岩脇宏信

発行所 財団法人 全日本仏教会